

平成の時代とは

参議院議員 藤井基之

その4 危険ドラッグ



国際的動向

わが国における薬物乱用の歴史を見ると、その遠因の多くは、海外における乱用薬物の国内流入にありましたが、危険ドラッグの国内乱用が拡大した理由の一つに、海外の危険ドラッグ製品の「個人輸入」があった、との指摘もありました。

海外における危険ドラッグの状況はどうだったのでしょうか。

わが国の危険ドラッグをUNODC(国連薬物犯罪事務所)等国連機関では、それまで規制下におかれておらず、ある時点からその乱用等が拡がり、人類への健康影響が懸念されることになった物質(NPS New Psychoactive Substances・向精神物質)として

わが国における薬物乱用の歴史を見ると、その遠因の多くは、海外における乱用薬物の国内流入にありましたが、危険ドラッグの国内乱用が拡大した理由の一つに、海外の危険ドラッグ製品の「個人輸入」があった、との指摘もありました。

海外における危険ドラッグの状況はどうだったのでしょうか。

わが国の危険ドラッグをUNODC(国連薬物犯罪事務所)等国連機関では、それまで規制下におかれておらず、ある時点からその乱用等が拡がり、人類への健康影響が懸念されることになった物質(NPS New Psychoactive Substances・向精神物質)として

「純性ハーブ」「天然ハーブ」として販売していたスパイス製品からJWH-018等の合成カンナビノイドを検出したと発表しました。人為的に有害物質を植物片に付着させていたことが判明したのです。09年1月には独が規制下に置いたのを皮切りに、瑞、英、露、米等各国が規制を始めます。既述(本紙今月11日

「純性ハーブ」「天然ハーブ」として販売していたスパイス製品からJWH-018等の合成カンナビノイドを検出したと発表しました。人為的に有害物質を植物片に付着させていたことが判明したのです。09年1月には独が規制下に置いたのを皮切りに、瑞、英、露、米等各国が規制を始めます。既述(本紙今月11日

世界薬物報告(WDR 17年版)によれば、09、16年におけるNPSについての国連事務局への報告は106の国及び地域からなされており、その数は739物質を数えます。

厚生科学研究班(平成27、28年度)「危険ドラッグを含む薬物乱用・依存状態の実態把握と薬物依存者の社会復帰に向けた支援に関する研究」報告書によると、危険ドラッグの生涯経験者数は13年調査時の約40万人から、15年調査では約31万人に減少、過去1年以内における危険ドラッグ経験者数はゼロとなっています。その理由としては、規制に

7種のNPSについてその作用特性から区分するのと、興奮剤36%、合成カンナビノイド受容体アゴニスト33%、幻覚剤16%となっています。

最近では毎年500近くのNPS物質が報告されており、新規NPS物質の報告は14年66物質、15年には100物質と増加しています。

一方でNPS約80物

より販売店や販売サイトが一掃されたことで、危険ドラッグの入手機会が減ったことを指摘しています。

また、表1、3の通り、危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数は14年の112人をピークに、検挙人員数も15年の1276

人へのピークに、共に減少。財務省によると関税法改正(15年4月1日)以降の指定薬物摘発件数は15年の1462件をピークに減少しています。12年12月には300以上存在していた販売店舗は15年7月にはゼロになりました。しかし、その密流はインターネット販売(ダークネット)等地下に潜ったのではないかと推測されています。密輸入事例も引き続き発生しています。

しかし、国連当局等の努力にも関わらず、その生産、押収、乱用実態等については、データが質、量ともに乏しく、残念ながら明確になっているとは、とても言えません。

ただ、言えることは、未だ世界中でNPS(危険ドラッグ)が密造され、乱用されているということです。

30年間。平成を終える時までにその乱用のピークは終えたことは明確になったものと判断されますが、乱用を根絶するには至りませんでした。12年12月には300以上存在していた販売店舗は15年7月にはゼロになりました。しかし、その密流はインターネット販売(ダークネット)等地下に潜ったのではないかと推測されています。密輸入事例も引き続き発生しています。

「医薬分業」が普通になった今、薬剤師の「本質業務」が問われている。言葉通りの指摘、裏に隠れた意図、そして薬剤師自らの自覚と認識のズレ…様々な要因、背景が交錯し複雑化する薬業界。長年、薬業界に寄り添ってきた記者ならではの視点で、**薬剤師の現状と想定される未来について語る!!**

「純性ハーブ」「天然ハーブ」として販売していたスパイス製品からJWH-018等の合成カンナビノイドを検出したと発表しました。人為的に有害物質を植物片に付着させていたことが判明したのです。09年1月には独が規制下に置いたのを皮切りに、瑞、英、露、米等各国が規制を始めます。既述(本紙今月11日

「純性ハーブ」「天然ハーブ」として販売していたスパイス製品からJWH-018等の合成カンナビノイドを検出したと発表しました。人為的に有害物質を植物片に付着させていたことが判明したのです。09年1月には独が規制下に置いたのを皮切りに、瑞、英、露、米等各国が規制を始めます。既述(本紙今月11日

世界薬物報告(WDR 17年版)によれば、09、16年におけるNPSについての国連事務局への報告は106の国及び地域からなされており、その数は739物質を数えます。

厚生科学研究班(平成27、28年度)「危険ドラッグを含む薬物乱用・依存状態の実態把握と薬物依存者の社会復帰に向けた支援に関する研究」報告書によると、危険ドラッグの生涯経験者数は13年調査時の約40万人から、15年調査では約31万人に減少、過去1年以内における危険ドラッグ経験者数はゼロとなっています。その理由としては、規制に

7種のNPSについてその作用特性から区分するのと、興奮剤36%、合成カンナビノイド受容体アゴニスト33%、幻覚剤16%となっています。

最近では毎年500近くのNPS物質が報告されており、新規NPS物質の報告は14年66物質、15年には100物質と増加しています。

一方でNPS約80物

より販売店や販売サイトが一掃されたことで、危険ドラッグの入手機会が減ったことを指摘しています。

また、表1、3の通り、危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数は14年の112人をピークに、検挙人員数も15年の1276

人へのピークに、共に減少。財務省によると関税法改正(15年4月1日)以降の指定薬物摘発件数は15年の1462件をピークに減少しています。12年12月には300以上存在していた販売店舗は15年7月にはゼロになりました。しかし、その密流はインターネット販売(ダークネット)等地下に潜ったのではないかと推測されています。密輸入事例も引き続き発生しています。

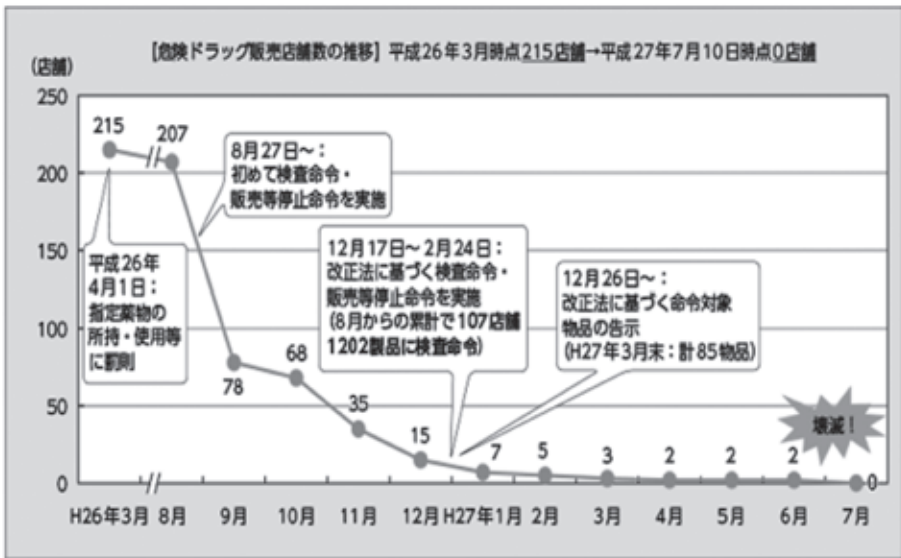
しかし、国連当局等の努力にも関わらず、その生産、押収、乱用実態等については、データが質、量ともに乏しく、残念ながら明確になっているとは、とても言えません。

ただ、言えることは、未だ世界中でNPS(危険ドラッグ)が密造され、乱用されているということです。

30年間。平成を終える時までにその乱用のピークは終えたことは明確になったものと判断されますが、乱用を根絶するには至りませんでした。12年12月には300以上存在していた販売店舗は15年7月にはゼロになりました。しかし、その密流はインターネット販売(ダークネット)等地下に潜ったのではないかと推測されています。密輸入事例も引き続き発生しています。

「医薬分業」が普通になった今、薬剤師の「本質業務」が問われている。言葉通りの指摘、裏に隠れた意図、そして薬剤師自らの自覚と認識のズレ…様々な要因、背景が交錯し複雑化する薬業界。長年、薬業界に寄り添ってきた記者ならではの視点で、**薬剤師の現状と想定される未来について語る!!**

図 危険ドラッグ販売店舗等の取締状況



状態の実態把握と薬物依存者の社会復帰に向けた支援に関する研究」報告書によると、危険ドラッグの生涯経験者数は13年調査時の約40万人から、15年調査では約31万人に減少、過去1年以内における危険ドラッグ経験者数はゼロとなっています。その理由としては、規制に

表1 危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者

年別	14年	15年	16年	17年	18年
死者数	112	11	6	3	1

警視庁資料より

表2 危険ドラッグ事犯検挙人員

年別	14年	15年	16年	17年	18年
合計	897	1276	988	726	433
うち指定薬物に係る薬機法違反	549	1040	826	653	383

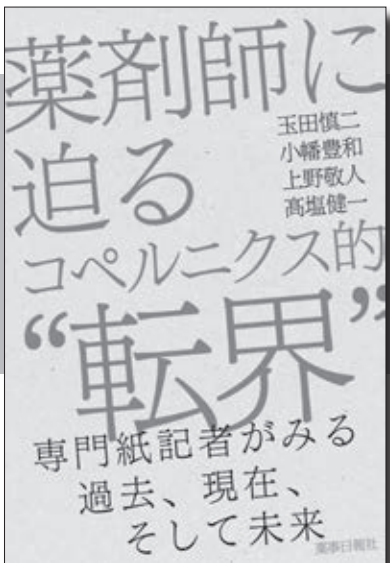
厚生労働省資料より

表3 税関における関税法違反事件の取締状況

年別	15年	16年	17年	18年
件数	1462	477	275	218
kg	40	19	8	16

財務省資料より

「危険ドラッグ」は、細々とではあるもののまだ水面下で咲き続けているようです。未だ乱用の続く世界の動向をも踏まえ、今後とも十分な対応が必要です。



四六判/322頁/定価1,800円+税

薬業専門紙(誌)4社初コラボ!! 緊急的提言?!

薬剤師に迫る“転界”
コペルニクス的

-専門紙記者がみる過去、現在、そして未来-

“医薬分業”が普通になった今、薬剤師の“本質業務”が問われている。言葉通りの指摘、裏に隠れた意図、そして薬剤師自らの自覚と認識のズレ…様々な要因、背景が交錯し複雑化する薬業界。長年、薬業界に寄り添ってきた記者ならではの視点で、**薬剤師の現状と想定される未来について語る!!**

【著者】
玉田 慎二(医薬経済社 論説委員)
小幡 豊和(薬局新聞社 編集部)
上野 敬人(薬事新報社 代表取締役社長)
高塩 健一(薬事日報社 出版局・出版委員)

薬事日報社

書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>